



福中だより

☆☆☆教育目標☆☆☆

希望 創造 潤い

昭島市立福島中学校

令和6年8月30日 NO.5

042-541-2940

創立44年目(昭和55年開校)

自分に自信をもつためには



校長 前川 法彦

4 1日間の夏休みが終わり、2学期がスタートしました。気持ちを切り替え、自分の目標に向かって充実した学校生活を送ってほしいと思います。2学期は、様々な行事もあり、学級や学年の団結が必要になる機会が多くあり、充実したものにできるかは、皆さん自身の行動が大きく関わってきます。本気で取り組んだ分、成長できる自分を発見でき、自信にもつながっていくでしょう。

では、自分に自信をもつにはどうすればいいのでしょうか。アメリカの大学教授が、「最近の心理学の研究によると、力のない人ほど自信過剰になり、自信のない人のほうが成長できる可能性があり、ポジティブである」ということを伝えています。

どんな分野でも、その道のプロの特徴の一つは、自分の知識の限界を知っていて、古くから賢人たちは、自信をもちすぎることの危険を何度も話しています。哲学者のソクラテスは、「自分が知っているのは、自分は何も知らないということだけだ」という有名な言葉を残しています。また、数世紀あとの進化論で有名なダーウィンは、「自信は知識から生まれるよりも、無知から生まれることのほうが多い」といっています。私たちは、人類を代表する賢人たちの言葉に、耳を傾けるけることが必要かもしれません。

心理学の研究によると、自信の高さは、成長を妨げることがあります。それは、自分の力に完全に満足していると、できないことに対して自分に都合のいいように理解しようとしします。また、自信が高くなるほど、できないことを無視するようになり、せっかく忠告してくれる人を軽くみてしまうようです。反対に、自信がない人は、自分に足りないものを知り、克服のために努力することができます。

皆さんは、学校生活の中で様々なところで学ぶ機会があります。そのとき、どのように考えているかで、みえてくる景色が大きく変化してきます。「自分は〇〇だからできない。どうせ自分なんか」と思ってしまうことはないでしょうか。できないことは恥ずかしいことではなく、あきらめて、そのままにしてしまうことの方が、未来への選択肢を減らしてしまいます。可能性は、みなさんひとり一人のなかにあります。力を付けていき、自分を磨いていきましょう。